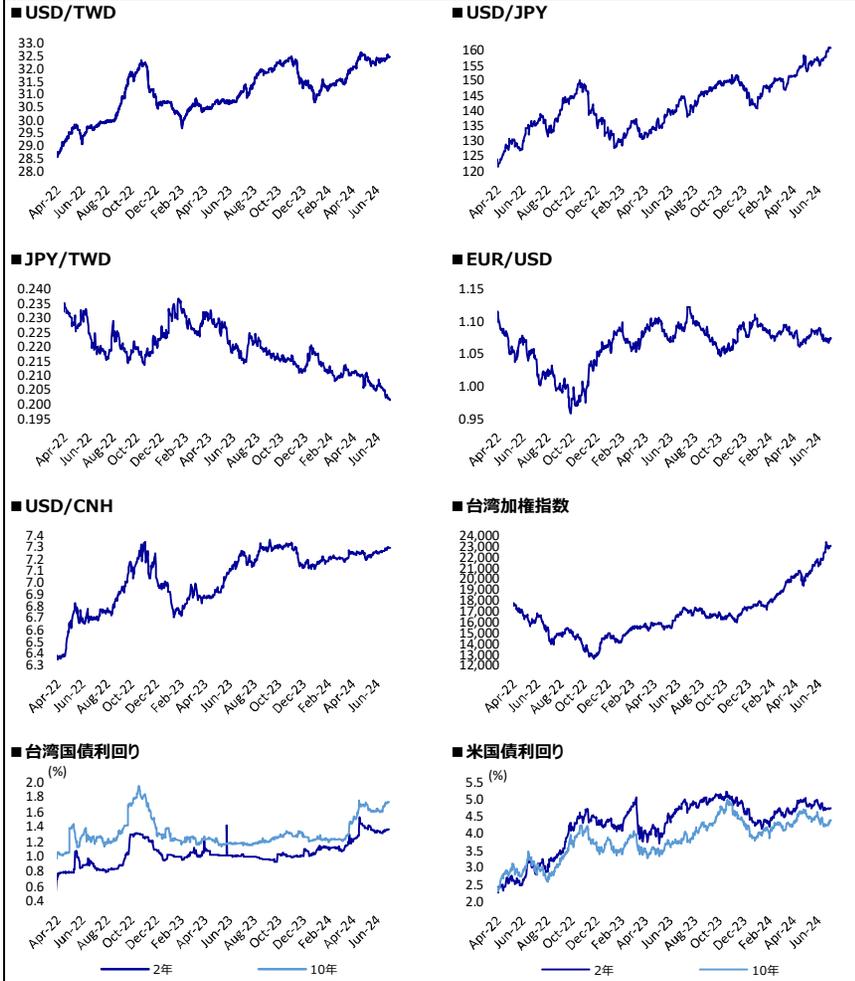


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD  
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初6/24は32.380でオープン後、輸出企業による外貨売りが見られ一時32.430まで下落。しかしその後、台湾株が下落する中、外国人投資家による台湾株売りが見られ、台湾ドル売りが優勢な展開となり32.40付近まで上昇した。6/25は、週央に米大統領討論会を控え、リスク回避的な動きから人民元売りが進んでいたことを受けて、アジア通貨売り圧力が高まる展開となり、32.40後半まで上昇。6/26は、前日海外時間に発表されたカナダ5月CPIが強い結果となったことを受けて海外金利が上昇する中、台湾ドル売りが進み32.50台半ばまで上昇した。6/27は、ドル円が160円の節目を上抜けて上昇していたことを受けて、台湾ドルも連れ安となり一時32.610まで上昇した。6/28は台湾株の反発や、輸出業者による外貨売りが背景となり台湾ドル買いが優勢な展開となり32.40台前半まで下落した。最終的には前週比0.3%ドル高台湾ドル安の32.450で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は697.7億台湾ドル。

■ USD/JPY  
先週のドル/円は上昇。週初6/24は159.77でオープン後、鈴木財務相より為替変動について「必要に応じて適切に対応する」との発言が聞かれると、円買いの圧力が高まり一時158.75まで下落した。6/25は、為替介入への警戒感から160円の節目を目前に揉み合いの推移。6/26は、前日海外時間にFRB高官のボウマンより「利下げを検討するのは時期尚早」との見解が示されたことを受けて、米金利が上昇。ドル買いが進み160円台後半まで上昇した。6/27は、米5月耐久財受注や米第1四半期GDPが軟調な結果となっていたことを受けて、ドル買いが一服し160円台半ばで揉み合いの推移。6/28は、米大統領選に向けてトランプ氏の大統領就任への期待感が高まり、米金利が上昇。ドル買いが優勢な展開となり一時161.27まで上昇した。最終的には前週比0.6%ドル高円安の160.89で先週の取引を終了。

■ USD/TWD 予想レンジ：32.300-32.600  
今週は上値の重い推移を見込む。海外投資資金送金等の影響でドル買い需要は相応に残存しているものの、米経済は落ち着きが見られ始めている他、台湾では金利上昇が続いており、わずかに台湾ドル買いの圧力が優勢となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：158.50-162.50  
今週は揉み合いの推移を見込む。米経済は落ち着きが見られ始めているものの、日米金利差は依然として大きい中、方向感に欠ける展開となるであろう。

今週の予定

7/1 (MON)	米6月ISM製造業景況感指数
7/2 (TUE)	
7/3 (WED)	米6月ADP雇用統計、米6月ISMサービス業景況感指数
7/4 (THU)	
7/5 (FRI)	台湾6月CPI、米6月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。